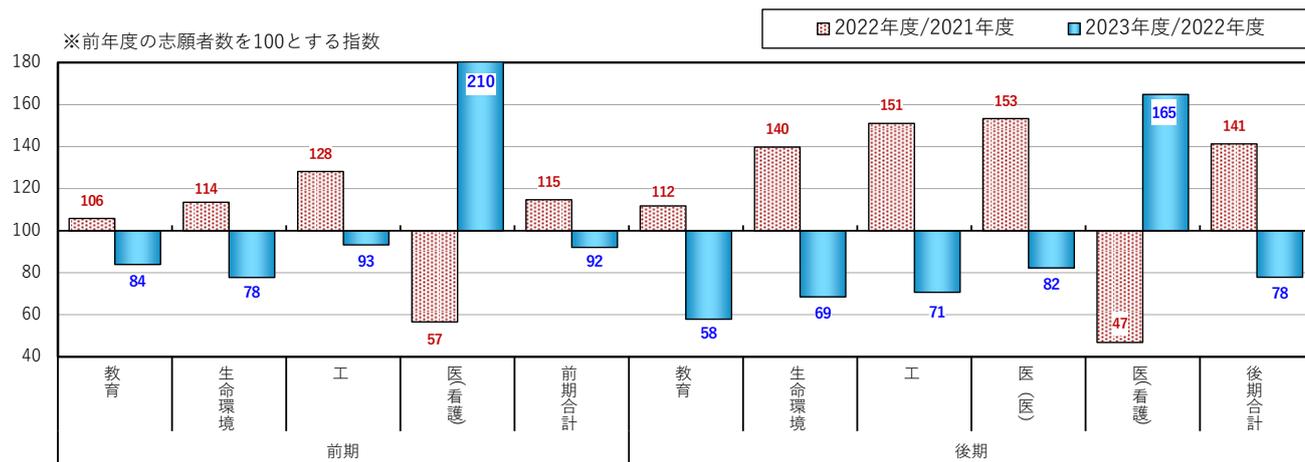


山梨大：前後期ともに反動で減少、特に後期は大幅減少

前期：-83 人 後期：-558 人



主な入試変更点

募集人員：工(土木環境工)…<前>33人→39人、<後>5人→7人 (機械工)…<前>33人→40人、<後>5人→8人
 (電気電子工)…<前>33人→41人 (メカトロニクス工)…<前>33人→39人、<後>5人→7人
 (先端材料理工)…<前>19人→27人、<後>5人→6人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅増加の反動で641人(82)の大幅減少。日程別では、前期は前年度大幅増加の反動で83人(92)の減少。後期は前年度大幅増加の反動で、558人(78)の大幅減少。いずれも、共通テストの平均点アップによる上位大学への強気の出願動向も影響。

<前期日程>

- 教育(84)**は、系統への低い人気と前年度やや増加の反動で大幅減少。コース別では、6コースで増減が3コースずつに分かれた。増加では、(学校教育/生活社会教育)(132)が3年連続減少の反動で大幅増加。一方で減少では、(学校教育/幼小発達教育)(50)は半減、(学校教育/障害児教育)(57)と(学校教育/科学教育)(84)は大幅減少。
- 生命環境(78)**は、前年度3年ぶりに増加したが、再び大幅減少。学科・コース別では、6募集単位中4募集単位が減少。減少した募集単位はいずれも20%以上の大幅減少、特に(地域社会システム/観光政策科学特別)(40)は2年連続大幅増加の反動で激減。一方で、増加した募集単位では(地域食物科学)(117)は前年度激増に引き続き大幅増加。
- 工(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、7学科中6学科が減少。特に、(機械工)(77)は前年度激増の反動で大幅減少、土木環境工(79)は2年連続大幅減少、(メカトロニクス工)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(電気電子工)(141)は前年度の倍以上に引続き大幅増加、募集人員も24%増加したが志願倍率は4年ぶりに3倍を上回った。
- 医(看護)(210)**は、前年度40%以上の大幅減少の反動と個別試験に教科試験がなく共通テストの平均点アップの影響を強く受けて、倍増以上。

<後期日程>

- 教育(58)**は、系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少。コース別では、6コース中5コースが減少。特に、(学校教育/幼小発達教育)(30)は前年度激増の反動で激減、(学校教育/障害児教育)(41)は前年度大幅減少に引き続き半減以下。一方で、唯一増加の(学校教育/生活社会教育)(163)は2年連続大幅減少の反動で激増。
- 生命環境(69)**は、前年度大幅増加の反動に加え、共通テストの平均点アップの影響による上位大学への強気な出願の影響で大幅減少。学科別では、全ての学科で大幅減少。特に、(地域社会システム)(59)は2年連続増加の反動で大幅減少、(環境科学)(63)は前年度倍増の反動で大幅減少。
- 工(71)**は、前年度大幅増加の反動と共通テストの平均点アップの影響による上位大学への強気な出願の影響で大幅減少。学科別では、7学科のうち6学科が減少、その中の5学科が大幅減少。特に(先端材料理工)(37)は3年連続大幅増加の反動で激減、(土木環境工)(57)は大幅減少で3年連続減少、(コンピュータ理工)(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、2017年度以降は前年度の反動による増減が継続。一方で、唯一増加の(メカトロニクス工)(121)は大幅増加で3年連続増加。
- 医(医)(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も18.0倍→14.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.8%だった。
- 医(看護)(165)**は、前年度半減以下だった反動に加えて、個別試験が面接のみであることから共通テストの平均点アップの影響を強く受けて激増。前年度の反動による極端な増減が継続。